



後漢時代の石門頌・乙瑛碑・礼器碑・史晨碑・西狭頌・曹全碑・張遷碑などを参考にしている。横画の収筆に波磔を備えたものを特に八分という。起筆は、藏鋒、字型は方形、又は扁平に左右対称にゆったり重厚に書く。

梅を折て薄雪に和しむ
 詩にいう茗を煮て孤燈に對すと和はむかいあわしむること、對せしむること。

(王禹偁の詩)